

100 世界遺産の旅 (89)

永遠の都

バルカン半島のドブロブニク訪問前に、当初、予定していなかった永遠の都ローマを再訪した。

日本よりヨーロッパへ行くに当たり、最も安い航空券は、なんと中国国際航空の関空ーローマ往復航空券 62,570 円であった。しかも中国国際航空は、ユナイテッド航空が主管する Star Alliance Group のメンバーで、50%であるがマイレージが付与される。この獲得マイレージも、将来、無料航空券の一部として、我が海外渡航の力添えになると確信する。



コロッセオと騎馬隊、ローマ、2019年5月

ローマ訪問は、3回目である。初回と前回は、トレヴィの泉で、後ろ向きになって1枚のコインを投げたが、今回、コインが手元になかったので諦めた。4回目のローマ訪問は、実現可能だろうか。未だ、勝手知ったローマとは言いがたいが、まずは定番のコロッセオよりスタートする事にした。そこで朝早く騎馬隊の隊列行進に遭遇した。何らかのイベントが近々あるのであろう。永遠の都ローマは、街全体が博物館で、一般の建屋にしても手の込んだ建築技法が施され、見所に事欠かない。これらの一部が日本に在るとすれば、それは即、重要文化財であろう。



トレヴィの泉、ローマ、イタリア、2019年5月

最初の訪問は、1996年で、日本人観光客が溢れていたが、現在、その数は激減し、それに代わって中国、韓国の旅行者が、忙しく走り回っていた。フォロ・ロマーノを左に見て、ミケランジェロ意匠のカンピドーリ広場へ登り、エマヌエーレ2世記念堂へ出た。その後、ローマの3大広場と云われるトレヴィの泉、スペイン広場、ポポロ広場を通り、サン・ピエトロ大聖堂へ足を伸ばした。



ミケランジェロのピエタ、サン・ピエトロ大聖堂

現在、サン・ピエトロ大聖堂の最大の呼び物と云えば、死後に十字架から降ろされたキリストを抱く聖母マリアの彫刻ピエタである。ミケランジェロの作で、唯一完成させたのが、ここサン・ピエトロ大聖堂のピエタである。1996年訪問時は、ピエタにタッチすることが出来たが、2013年は、ガラスで覆われ触れることは出来なかった。今回と云えば特別な壇上に移設され、しかも周囲全体が幕で覆われ、特別記念展示のように列を成して拝見した。



アテナイの学堂、ラファエロの間、バチカン美術館

2018年、イタリアは、最多54の世界遺産を誇っていた。大聖堂の後、バチカン美術館を訪れたが、システリーナ礼拝堂は、足の踏み場も無かった。バチカン美術館は、ラファエロとミケランジェロの美の競演の館で、どの絵、彫刻を取っても感動に値する。ミケランジェロとバチカン側の意見の対立があった隙を縫って、本来「ミケランジェロの間」と呼ばれるはずだった空間は、「ラファエロの間」になってしまった。